

東北で1人勝ちの都市—仙台 仙台駅西口表玄関の顔

“さくら野百貨店仙台店” 破産 競争激化、売上げ減 負債 31 億円

「さくら野百貨店仙台店（仙台市青葉区）を経営するエマルシェ（同）は2月27日、仙台地裁に自己破産を申請し、破産手続き開始の決定を受けた。代理人の弁護士によると負債額は約31億円で、社員やパートなどの従業員約120人は26日に全員解雇された。郊外のショッピングセンターの台頭や、近隣のファッションビルとの競争激化による売上げ減が主因。」

駅前競争激化耐えきれず テナント貸し戦略も不発

「さくら野仙台店は民事再生後の2020年、仙台ビブレから店名を変えて再出発した。しかし資金繰りの苦しさから店内の改装がままならず、雑貨や衣料品など直営の売り場の拡充も思うように進まなかった。

事態打開のため、同店は駅前の一等地にある立地を生かし、店舗敷地内をテナントとして貸し出す方針を取り入れた。2階には海外衣料ブランド「H&M」、6、7階には中古書籍販売「ブックオフ」が入居。若者の来店は増えたが、百貨店が持つ高級感などブランド力は逆に低下。全体の底上げにつながらなかった。

昨春には1回正面に入っていた大手アパレル「ユナイテッドアローズ」が撤退し、駅前のエスパル仙台本館に移転。その後に入ったのは携帯電話販売店となり、仙台の商店関係者からは「百貨店なのか分からなくなっている」との声も出ていた。

売上高は年々減少し、11年2月期には100億円台を割り込み、16年2月期は79億3,900万円まで落ち込んで、4期連続の赤字決算となった。

宮城県内の百貨店は、仙台三越と藤崎の2社のみになる。仙台三越の渡辺憲一社長は「仙台には百貨店文化が残り、3社が競合している状況は望ましいと考えていた。それだけに今回の決定は寂しい」と語った。

藤崎の小野寺宜克常務は「閉店は非常に残念。地方百貨店は経営が厳しいと言われるが、信用や価値をどう高めていくべきかが問われている」と強調した。（「河北新報」17年2月28日付け）

【2016年・17年に閉店した・閉店する主な百貨店】

百貨店名（閉店日）	百貨店名（閉店日）
堺北花田阪急（17年7月）	三越多摩センター店（17年3月20日）
千葉パルコ（16年11月末）	大丸浦和パルコ店（17年7月末）
西武八尾店（17年2月末）	タカシマヤローズショップ平塚（17年1月31日）
西武筑波店（17年2月末）	西武旭川店（17年9月）
三越千葉店（17年3月20日）	そごう柏店（17年9月）

【「さくら野で会いましょう」はもう使えない 倒産したさくら野百貨店仙台店】



【さくら野百貨店仙台店の内部】



【原発被災地を巡るツアー】(いわき駅集合・解散、費用約1万1千円)

(第4回) 5月20日(土)～21日(日) 1泊2日

(第5回) 6月17日(土)～18日(日) 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールにて